

についての共通認識をもち、それぞれの担当者の授業の関連を強め、授業全体を組み立てていく。

### 9.3.4 教育成果のあり方

#### 【評価項目 6-4-1】 教育効果の測定

(必須要素) 教育・研究指導の効果を測定するための方法の適切性

(選択要素) 修士課程、博士課程修了者（修業年限満期退学者を含む）の進路状況

(選択要素) 大学教員、研究機関の研究者などへの就任状況と高度専門職への就職状況

#### 【評価項目 6-4-2】 厳格な成績評価の仕組み（成績評価法）

(必須要素) 学生の資質向上の状況を検証する成績評価法の適切性

##### <2003年度に設定した目標>

1. 学生による授業評価
2. 学生の学会・研究会への積極的参加
3. 就職活動支援のための教員間でのネットワークの構築
4. 成績評価方法の見直し

#### (現状の説明)

##### 1. 教育効果の測定

本研究科で実施している教育の効果を知る一つの方法は、学生による授業評価である。本研究科開設当初より授業評価を実施しており、各学期の終わりに研究科共通の授業アンケートを教室で配布し回収している。また、修士学位授与式の後、修了者に対して研究科全体のアンケートを行い、これまでの課程在学中の感想や意見を聴取している。

学生は在学時に、学内の言語コミュニケーション文化学会のほか、学外での研究会や全国的学会、国際学会でも積極的に参加し研究成果を発表している。これらの発表のための準備、また発表で得られた成果などにより、研究活動が活性化している。

前期課程の修了者の進路は、2004年度修了者の場合、企業6名、大学を除く学校教員5名、進学5名、その他9名となっている。過去3年間の統計では、大学を除く学校教員の比率が最も多い。社会人の場合には、元の職場にもどるものがほとんどであるが、大学院での実績を生かして、新しい職場に就職する者もいる。学校関係への就職に関しては、各教員のネットワークで就職先を見つける場合もある。

##### 2. 厳格な成績評価の仕組み（成績評価法）

成績は、学則にしたがって、優（80～100）、良（70～79）、可（60～69）の3段階で評価している。評価方法は、授業中の評価、レポート、発表等により総合評価している。

#### (点検・評価の結果)

1. 学生による授業評価については、開設当初より実施されているが、現在のところ結果の公表、学生へのフィードバックが実施されていない。

2. 学生は、主として研究科構成委員で運営される言語コミュニケーション文化学会への参加をはじめ、各専門分野の全国、関西支部等の学会・研究会へも積極的参加し、発表を行っている。学生の学会発表数は、2003年度22回、2003年度20回、2004年度24回であった。結果から一定の評価ができる。
3. 研究科の専門性が生かせる就職先の開拓が必要である。
4. 成績評価については、ネイティブ教員と日本人教員、専門領域間で若干のばらつきが見られる。

(改善の具体的方策)

1. 授業評価アンケートの結果を工夫し公表する。
2. 学校関係に関して、各教員個人のネットワークを生かして多くの学校への就職ネットを張り巡らせ、就職情報を早く入手する。
3. 大学院でもGPAの導入も視野にいたれた成績評価方法・評価基準の見直しを行う。

### 9.3.5 教育の質の向上

**【評価項目 6-5-1】 教育改善への組織的な取り組み（教育・研究指導の改善）**

- (必須要素) 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するための組織的な取り組み状況
- (必須要素) シラバスの作成と活用状況
- (必須要素) 学生による授業評価の活用状況
- (選択要素) 学生満足度調査の導入状況
- (選択要素) 卒業生に対し、在学時の教育内容・方法を評価させる仕組みの導入状況
- (選択要素) 高等教育機関、研究所、企業等の雇用主による卒業生評価の導入状況

<2003年度に設定した目標>

1. 少人数のクラスを堅持しながら、高い質の授業を行う。
2. 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するためのFDの実施。
3. 毎年、シラバスを作成することによって、組織だった授業計画を実施する。
4. 学生による授業評価を実施することによって授業を改善していく。

(現状の説明)

1. 2005年度履修登録状況は、研究科の共通講義科目の平均履修者数は6.8人、共通演習科目は9.0人、領域研究科目は4.9人である。全体としては比較的少人数のクラスの授業が実践されている。

なお、授業の開講方法は、昼間中心の履修者、夜間中心の履修者が、それぞれが2年間で全科目履修を履修できることを配慮し時間割を組んでいる。共通科目は夜昼共に毎年度（2学期間）に各1回以上、領域研究科目は3学期間に各1回以上開講することを原則としている。

2. 教員の教育・研究指導方法の改善を促進するため、FDの研修会を行っており、以下の通り実施した。